

分科会名	領 域
第 5 分科会	情 報

【授業展開のポイント】

オツベルはほんとうに命を失う必要があったのか。この問いについて、本文の言葉から論理的に考察することを通して、白象が「寂しく笑った」心情を、学習者が捉えなおす授業を展開する。

第 1 学年 3 組 国語科学習指導案（当日案）

（茨城大学教育学部附属中学校）

- 1 単元名 文学的文章の中の情報と情報とを関係付けて考える
～白象の願いはかなったのだろうか～（第 1 学年）〔知識及び技能〕（2）

2 単元の目標

- （1）原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕（2）ア
- （2）文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C（読むこと）エ
- （3）言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。（2）ア	①「読むこと」において、場面の展開と登場人物の心境の変化について、描写を基に捉えている。（C（1）イ） ②「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。（C（1）エ）	①粘り強く、言葉のもつ価値に気付き、登場人物の心境の変化を捉えて原因と結果を理解しようとするとともに、学習課題について、自分の考えを文章にまとめようとしている。

4 単元について

（1）生徒観

本県の傾向として、平成 27 年度の学力診断のためのテストの結果から、「文脈に即して登場人物の心情の根拠を捉えること」に課題があることが指摘されている。中学校第 2 学年においては、登場人物の心情の根拠を本文中の言葉を用いて説明するという設問において、無答率が 18.4%と、文脈や叙述から根拠を捉えることに課題があると考えられる。また、平成 31 年の全国学力・学習状況調査では、文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉えることに課題があることが明らかとなっている。

本学級の生徒を対象に、レディネステストを実施した。（令和 3 年 6 月 25 日 1 年 4 組生徒 35 人）

本テストでは、小学校 5 年「大造じいさんとがん」のテキストの一部を取り出し、登場人物の心情と情景描写が言葉によってどのように関係付けられているのかを学習者が捉えられているかの検証を行った。

【取り上げた場面】

「うまいくぞ。」

大造じいさんは、青くすんだ空を見上げながら、にっこりした。

その夜のうちに、飼いならしたがんを例のえ場に放ち、昨年建てた小屋の中にもぐりこんだ。

さあいよいよ戦闘開始だ。

東の空が真っ赤に燃えて、朝が来た。

残雪は、いつものように、群れの先頭に立って、美しい朝の空を、真一文字に横切ってやってきた。

やがて、え場におりると、グワー、グワーという、やかましい声で鳴き始めた。

大造じいさんのむねは、わくわくしてきた。しばらく目をつぶって、心の落ち着くのを待った。

そして、冷え冷えする銃身を、ぎゅつとにぎりしめた。

(傍線は筆者)

問1 「わくわく」とありますが、「わくわく」することと対比的に用いられている言葉を、本文中から書き抜きなさい。

問2 「目をつぶって」とありますが、なぜ、「目をつぶる」という行為をしたのでしょうか。その理由を、大造じいさんの気持ちにふれながら、本文中の言葉を用いて説明しなさい。

問1は、大造じいさんが高まる興奮を抑えるように、残雪との対決に向けて冷静さを取り戻す象徴としての「冷え冷えする」という言葉の効果を問う問いである。この問について、生徒の正答率45.7%であった。一方、問2は、「目をつぶる」という行為が、どのような目的で行われた行為か、ということとを問う問いである。生徒は、後文脈に示される「心の落ち着くのを待った」という描写を捉え、正答率は82.9%であった。

このことから、「目をつぶって」という登場人物の行動描写について、叙述をもとにその理由を捉えることは十分にできていることが分かる。一方、「わくわく」のように、登場人物の心情描写と、それに関連する叙述の効果やその意味について捉えることに課題があることが分かる。

以上のことから、本単元において、白象が「寂しく笑う」という描写について、どのような叙述から「寂しく笑う」という心情を捉えることができるのかについて考察することが、これらの課題を乗り越えるために有効であると考えられる。

(2) 教材観

そこで、こうした生徒たちに本文に含まれている情報の扱い方を理解し、原因と結果、意見と根拠などの情報と情報の関係について、場面の展開や登場人物の相互の関係、心情の変化などの描写に着目しながら、論理的に説明する力を身に付けることが必要であると考えた。本教材は、オツベルにずいぶんめに遭わされている白象が、仲間の象たちに「みんな出てきて助けてくれ」と願う。その手紙を受けて、象たちは「オツベルをやっつけよう」と怒りをあらわにする。結果、オツベルは、象たちによってくしゃくしゃにつぶれてしまう。

白象の言葉と、象たちの解釈のずれを論理的に考察することにより、白象の「寂しく笑って」という心情を丁寧に考察することができる。このように、人物描写、心情描写に着目し、原因と結果を論理的に理解することをとおして、根拠を明確にして考えを形成することができる。と考える。

(3) 指導観

そのため、指導に当たっては、まず「物語はハッピーエンドか、バッドエンドか」「それはなぜか」という問いを与え、問いから本文を考察する手順を示す。次に、そそれに関連した「問い」と「答え」を考察する場面を複数設定する。また、考察する場面においては、ICT ツール (AIAI モンキー) を活用して可視化できるようにする。

次に、生徒が「白象はなぜ『寂しく笑った』のか」という大きな問いの納得解に、本文の言葉と言葉の関係について、原因と結果を整理しながら到達できるようにする。これらの手立てを通して、生徒が文脈に即して登場人物の心情を示す根拠を捉えることができるようにする。

最後に、「一文で書く」という言語活動で記述した内容と、単元の学習後に形成した自己の考えを比較し、何がどのように変容したのかを捉え、どのような力が身に付いたのかを共有できるようにする。

本単元では「社会で生きる力を育む」視点として、「相互作用的に道具を用いる」ことを目的としてICT ツールを活用することにした。このツールを活用することにより、生徒がどのように判断し、どのような言葉を用いて考察したのかについて瞬時に集約することができると同時に、可視化された言葉をもとに、生徒の思考の変容に相互に作用することをねらいとする。

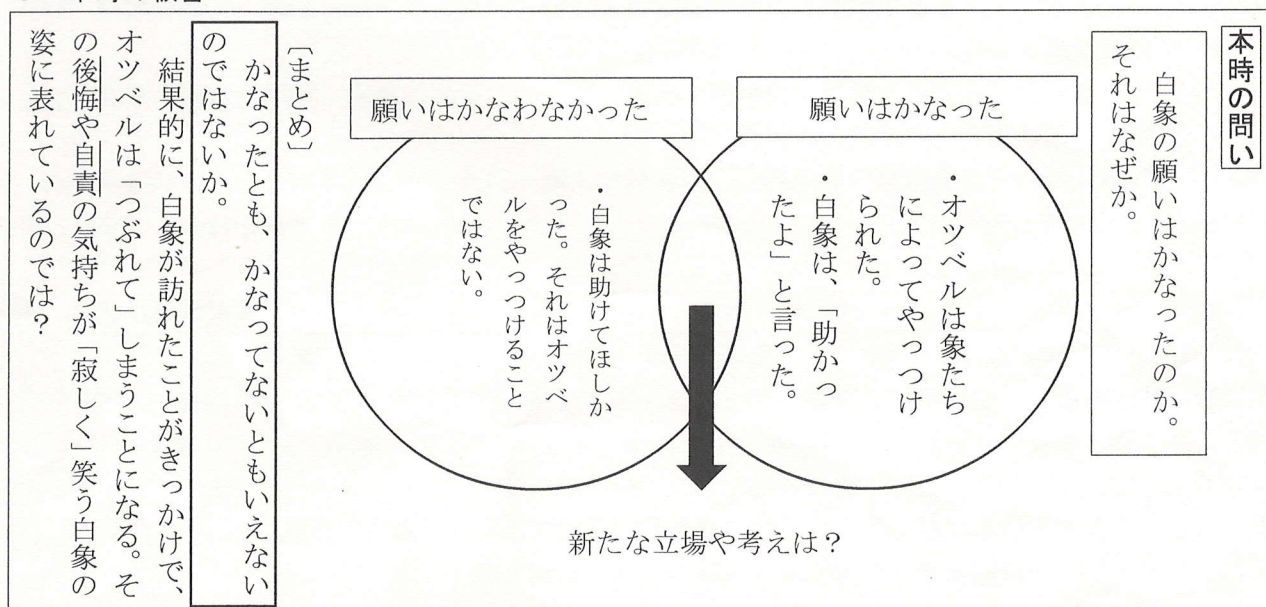
5 単元の指導と評価計画（8時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】
1	○レディネステストの結果を提示し、何が身に付いていて、どのようなところが画題であったのかを知る。 ○単元を通して、叙述と描写がどのように関係付けられているかを考えることを共有する。 ○4年生で学習した「ごんぎつね」の物語は、ハッピーエンドかバッドエンドか。そしてそれはなぜか、という問いについてタブレットに入力しどのような結果が表れているかを考察する。	- レディネステストの結果を提示することを通して何が身に付いていてどのようなことが課題であったかを指摘する。それにより、本単元で身に付ける資質・能力について共有することを通して、学習の見通しをもてるようにする。 - タブレットの扱い方、ICTツールの見方・考え方について共有できるようにする。	
2	○単元の学習課題を確認する。 この物語は「ハッピーエンド」か「バッドエンド」か。また、それはなぜか。 ○単元の学習課題を意識しながら、全文を通読して内容の大体を捉える。 ○学習課題について、自分の立場とその理由をタブレットで入力する。	- 学習課題と言語活動の内容を示し、学習の見通しをもてるようにする。 - 難解な語句を確認するとともに、登場人物や出来事、山場など、これまでの学習体験をもとに捉えて読むことを助言する。	
3	○「わくわくの実」に表出した言葉に着目し、①どのような言葉が気になるか、②それはなぜか、について交流する。 ○叙述における形象を捉えるために、全文を精読する。本文に示された情景や心情の描写について考察しながら読む。	- 表出したデータの見方や考え方を提示することを通して、交流する視点をもてるようにする。 - 本文のどの部分が関連するのか、そしてどのような捉え方ができるのかについて聴き合うことができるようにする。	

4・5	○「やまなし」と、本文に叙述される擬音語・擬態語を比較し、本文に使われている擬音語・擬態語の特徴とその効果について考察する。 ○ここまでの学習をとおして、本文から捉えられる事柄を10の観点から整理する。	・「やまなし」と比較するワークシートを提示し、擬音語・擬態語の特徴を比較の視点から根拠を得て考察できるように配慮する。 ・様々な観点から作品を捉えられるようにする。	[思考・判断・表現②] ワークシート ・「やまなし」の本文との比較から考察したことを根拠に、擬音語・擬態語の特徴とその表現の効果をまとめられているか確認
6・7 本時	1 本時の課題（問い）を確認する。 白象の願いはかなったのか。そして、なぜそういえるのか。 2 本時では、「僕はずいぶんめに遭っている。みんな出てきて助けてくれ。」という叙述に着目し、課題に迫ることを確認する。 3 白象の願いはかなったのか、かなっていないのか、立場を決める。 (予想される生徒の姿) ・願いはかなった。 ・願いはかなっていない。 4 それぞれの立場に立った人で学習班をつくり、その理由について整理してタブレットに入力する。 【願いはかなったという立場の生徒】 ・白象は、象たちによってオツベルから解放されたのだから、願いはかなっただろう。 【願いはかなっていないという立場の生徒】 ・白象は、「助けてくれ」と願ったのに、象たちは「オツベルをやっつけよう」と理解した。願いがかなったとはいえないだろう。 5 可視化された言葉をもとに、本文の叙述の論理を確かめ、白象が「寂しく笑った」気持ちについて自分の考えとその根拠について話し合う。 6 本時の学習を振り返る。 ・白象が「寂しく笑った」のはなぜかを考えることを通してどのようなことが分かったかをまとめ、タブレットに入力する。 7 タブレットに入力した内容について交流する。	・単元の学習課題に迫るために、本文の叙述に着目して考えることを提示し本時の見通しをもてるようにする。 ・「どちらか」「それはなぜか」という立場と根拠を明らかにするための話型を提示する。 ・ICTツールを準備し、学習者がタブレットに入力した情報を整理して提示することで、表出した言葉に着目して考えることができるようにする。 ・立場を同じくする生徒同士で自由に学習班をつくり、考察することを助言する。 ・白象が「寂しく笑った」の「寂しく」という言葉に着目させ、なぜそのような心情に至ったのかを考察できるようにする。 ・意図的に指名し、優れた学習者の考察にふれることができるようにする。	[知識・技能①] 入力内容 ・交流をとおして、叙述と叙述の関係を改めて捉えなおし、叙述を基に考えを変容させているかの確認

8	○改めて、物語が「ハッピーエンドかバッドエンドか、それはなぜか」という単元の問いについて交流する。 ○自己の考えをまとめ、タブレットに	・第2時で集約した情報と学習後の情報を提示し、何かどのように変容したか、言葉を通して比較できるようにする。 ・意図的に指名し、大きく考えが変容した学習者の記述にふれることができるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>入力内容</u> ・学習課題について初発の考えと単元終了後の自分の考えを比較し、どのような変容があったかについて自分の考えを整理しようとしているかの確認
---	---	--	--

6 本時の板書



参考文献

国立教育政策研究所

「令和2年度全国学力・学習状況調査 解説資料（中学校国語）令和2年7月」（2020）

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（2017）

大西忠治編・阿部昇著『オツベルと象』の読み方指導（明治図書 1991）

田近洵一・井上尚美・中村和弘編「国語教育指導用語辞典 第五版」（教育出版 2018）

※本編において、生徒観を把握するためのレディネステストは、本書 pp74-75 によった。